様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 14 日現在

機関番号：27101
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：　2011　～ 2012
課題番号：23820043
研究課題名（和文）「自治」の作法：スロヴァキアにおける村落アソシエーションと NGO の交渉より
研究課題名（英文）　The Style of Self-Governing：Negotiations between NGOs and village associations in Slovakia.
研究代表者
神原　ゆうこ（YUKO KAMBARA）
北九州市立大学・基盤教育センター・講師
研究者番号：50611068

研究成果の概要（和文）：
本研究は、政治方針の変更に直面せざるを得ないスロヴァキアのローカルな地域社会の現場における公共性のあり方を明らかにすることを目的としている。欧米型の NGO 活動とそのネットワークは、1990 年代以降の都市部で発展し、現在のスロヴァキア社会を支えているが、変容をめざす村落の若者のアソシエーション活動とはうまく接合できていない。自由な市民の活動が基盤であるがゆえに、現在の公共的世界のネオリベラルな限界が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
The aim of his research project is to explain on the structure of public sphere in Slovak local community confronting with political changes. Euro-American oriented NGOs and its network have supported to self-governing in present Slovak urban society after 1990s, however it could not connected with village associations which are eager to transform themselves. Contemporary public sphere get to include also neoliberal character, because their voluntary civil activities are not controlled by minority’s desire.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：文化人類学
科研費の分科・細目：　文化人類学・民俗学
キーワード：文化人類学、自治、公共性、ポスト社会主義、地域社会

１．研究開始当初の背景

(1) 研究動向と理論的背景

1989 年の中東欧における社会主義体制の崩壊は、その後の地域社会のあり方に大きく影響を与えた事件として広く注目されている。

文化人類学において注目されてきたのは、この地域における脱集団化過程における所有の問題や「市民社会」など体制転換以降の概念の受容等である[De Soto & Anderson (eds.) 1993, Verdery 1996]。とくに、後者の政治体制と人々の政治的価値観に関連す

る問題は、中東欧に限らず、近年はさまざまな地域において人類学的な研究が進められているテーマであり[Paley 2001, 田辺 2010]、地域に即したローカルな「民主主義」のありかたについての研究は現在もっとも注目を集めている研究のひとつである。さらに、この「民主主義」を支えるとされるアソシエーション活動に注目した研究も、地域問わず多く見受けられるものであり、近年の人類学において、社会における公共的なものへの関心は高まっている。

このような研究動向に関連して、2000 年代以降のスロヴァキアで、EU の方針に従い、地方自治体の裁量が拡大したことは、新たな問題を提起した。与えられた「自治」を担う人材が不足している小規模自治体が対応に苦慮しているという問題が生じているのである[Gajdoš 2007]。自らの地域を自分たちで解決する権限が与えられたにもかかわらず、それを機能させることができないという現状を考えると、単にうまく機能する一部のアソシエーションに注目するだけでは、見落としてしまう問題が存在することは明らかである。公共的なものの内部について、「自治」およびそれに付随する公共性について、もう一歩深めた考察を行うことが重要な課題となっている。

文化人類学において、自治に関する研究は、マイノリティがその取得を自ら希望し、獲得する段階を研究対象としたものが多く[Nash 2001]、自治といってもその対象には幅がある。もちろん政治学では、自治について一定の研究蓄積があり、社会主義・ポスト社会主義国であれば、中国やベトナムにおける政治改革の一環として導入された自治の研究が行われている[中田(編)2000]。ただし、政治学の場合、制度設計が主たる論点であり、村の人々自らも半分統治の主体となる「自治」の制度に編入される人々の認識の変容に言及する文化人類学的な研究が必要とされている。

参考文献：**De Soto, H. G. & D. G. Anderson** (eds.) 1993 *The Curtain Rises*. New Jersey: Humanities Press. / **Gajdoš, P.** 2005 Trendy sídelno-regionálneho rozvoja Slovenska ako rozvojavé bariéry. In *Trendy regionálneho a miestneho rozvoja*. Z, Beňušková & O. Danglová (eds.), pp. 33-52. Bratislava: Ústav etnológie SAV. / **Nash, J.** 2001 *Mayan Visions*. New York: Routledge. / **Paley, J** 2001 *Marketing Democracy*. Berkeley: Univ. of California Press. / **Verdery, K.** 1996 *What Was Socialism and What Comes Next?* Princeton: Princeton Univ. Press. / 田辺明生 2010『カーストと平等性』東京大学出版会。/ 中田実（編）2000 『世界の住民組織』自治体研究社。

(2) 研究代表者の研究蓄積について

研究代表者は以前からスロヴァキアの国境地域村落を調査地として、1989 年の社会主義から民主主義への体制転換が人々の生活に与えた変化に関心を抱いて研究を続けてきた。

スロヴァキアにおいて、村落の高齢者は「時代から取り残された人々」と見なされがちであるが、土地に残る高齢者もまた、村落のアソシエーションとともに行政主導の国境地域交流イベントなどに巻き込まれ、社会主義時代以前の状況についての村落の集合的記憶と重ね合わせる形で、体制転換以降の社会に適応しつつあった。しかし、EU の方針に即した地方分権化は村落にさらに新たな対応を迫るものであった。さらに、スロヴァキアに多数存在する 2000 人以下の村落では、当該村落またはその近隣に職をえることができた一部の若者・中年世代と、多数の高齢者しか村落の自治の担い手がいないのが現状であった。そのような状況において、村落の多い地域の小都市に活動拠点を置く地域振興 NGO（本報告書では、社会主義時代から続く地域のアソシエーションと区別して、欧米の NGO に近い活動を行う団体を NGO と記す）は、小規模自治体の支援に欠かせない存在である。

とはいえ、村落のアソシエーション自体が村の「自治」と「伝統的に」結び付いてきた土地において（村会議員が無給の仕事であることをはじめボランタリーな活動は自治に欠かせない)、外部の NGO と村落のアソシエーションの連携の場の意志疎通は、順調であるとは限らないことが予想される。それは、EU 的な地域自治の考え方と顔の見える範囲のコミュニケーションで成立してきた自治の考え方の相違であり、現地の人々が、一つの意味しか持たないと認識しがちな自治、民主主義、公共性などの概念の複数性に直面することを意味する。

これまでの研究では、村落における自治について村落のなかに主眼を置いて研究をしてきた。しかし、以上に述べたように、現在の村落を取り巻く状況を把握するには外部の NGO など、村落の外側にも注目する必要があることが明らかである。

２．研究の目的

１．の研究開始当初の背景で示した問題意識に従い、本研究は、スロヴァキアの村落に与えられた「自治」において、新たなかたちで村落を支え始めるアソシエーションの位置付けを考察するものであり、それを通して

地域社会における公共性について考察することを目的とする。
具体的には、スロヴァキアの地域社会における「自治」の場にかかわるアソシエーションやNGOの連携のありかた、および「自治」について異なる論理の交渉や接合の場面に注目する。

３．研究の方法

本研究はスロヴァキアにおけるフィールドワークとそこで得られたデータ分析、および公共性、アソシエーションの役割に関する文献研究の2つの軸を土台として研究をすすめする。
採択が23年秋であったので、24年3月、9月、25年3月と3回のフィールドワークを行い、現地でのインタビュー調査、資料収集に努めた。調査地としては、研究代表者が以前から調査をおこなっていた西部国境地域の村落であるMJ村をひとつの拠点とする。加えて、村落のアソシエーションを支援するNGOに注目し、両者の関係について調査する。最終的に都市のアソシエーションの活動そのものにも注目するため、1990年代から活発なアソシエーション、NGO活動を行っていた中部スロヴァキアの地方都市B市を選定した。

４．研究成果

(1) 年度ごとの研究経過

①23年度
上記の研究課題を遂行するため、23年度は、分析を行う上で鍵となる概念の考察と現地調査を行った。前者に関しては、まず現地の村落社会における民主主義理解に関する考察を試み、その結果を学会などで報告した。また、調査にあたっては現地の研究者との議論も欠かせないため、スロヴァキアにおける近年の文化人類学動向を把握することに努め、こちらは書評として発表した。後者の現地調査については、スロヴァキアの研究者や関係機関に協力を仰ぎ、具体的には次の3点の作業に専念した。①スロヴァキア共和国における、図書館や関係機関での文献、その他の資料取集、②首都ブラチスラヴァ周辺村落における村落アソシエーション関係者へのインタビュー調査、③来年度の2次調査の準備のため、都市部のアソシエーションについての最新の現地情報収集し、現地の研究者などの協力者との打ち合わせ、の以上である。

②24年度
23年度に引き続き、現地でのフィールドワークと資料収集を9月と3月に行い、そこで集めたデータをもとに研究を進めた。昨年度が村落部中心の調査であったのに対し、本年度は新たに中部スロヴァキアの地方小都市の調査を精力的に進めることができたのが大きな収穫である。
23年度の調査より、体制転換以降も、その形式は社会主義時代と変化なく、村落を手伝いつつ活動を続けていた村落の各アソシエーションも活動資金の集め方の変化には自覚的であったことは明らかであった。そこで、この変化における欧米的NGO活動を行うアソシエーションの存在に注目し、その作法を人々がどのように理解してきたか注目した。24 年度はこれまでの村落からの視点ではなく、スロヴァキアの地方小都市に調査拠点を移し、90年代からの地方都市におけるアソシエーション活動の歴史的発展、現在のアソシエーション同士の連携活動に注目した。
本研究は現地のアソシエーションやNGOの活動状況を把握することのみを目的とするのではなく、それがポスト社会主義的状況における「自治」とどのように結びついているかを考察することが最終的な目的である。したがって、フィールドワークから得られる情報を微細に分析するだけでは不十分であり、スロヴァキアにおける体制転換以降の民主主義、市民社会の発展の状況を参照しつつ研究をすすめることを心掛けた。ただし、それでは研究の視点が広範囲になるため、今年度は学会や研究会等で積極的に報告を行い、さまざまな分野の聴衆からコメントを頂くことで、適切に研究の焦点を絞ることを心掛けた。なお、すべてのフィールドワークを終えたのは 25 年 3 月であるが、途中の段階でもできるだけ研究成果を査読のない論文として素早く公表したりすることに努めた。最終的な研究成果は平成 25 年度中には論文としてまとめる予定である。

(2)主な成果

①「村のため」という言葉のモラリティ
MJ村の村落アソシエーションは、社会主義時代から活動しきた団体を中年層以上が主として活動を支えているのが主流である。しかしながら、近年、これとは別に、村の若者が新たに立ち上げた地域に貢献するためのアソシエーションの存在感が村のなかで大きくなっている。これらをどのように理解することができるだろうか。かれらは、大卒者を中心とした少人数グループで、公的な助成金を得ることに成功することもあるが、基本的には彼（女）の行動原理は「村のため」である。この言葉は旧来の村落アソシエーションのメンバーが村のイベントを補佐するときの理由と同じである。欧米的NGOのように、機能分化したアソシエーションはコミュニティの一部としてみなされにくく、コミュニ

ティを支え続ける姿勢を見せ続けることが村落のアソシエーションとしての承認ンを受ける条件であるといえる。

②都市と切り離された村落の存在

欧米型のNGOに近い形で活動を行いはじめた MJ 村の村落のアソシエーションは、組織的な支援や連携関係があるわけではなく、活動は個人的な資質によるところが大きいことが、初期の調査より明らかになった。しかしながら、スロヴァキア国内には複数の村落を支援する NGO が存在するのも事実である。MJ村は支援を受けていないのであれば、支援を行うNGOはどのように支援先を探すのだろうか。

村落の支援を行うNGOは地域の拠点となる地方都市に存在することが多い。したがって研究の中盤ではスロヴァキア西部から中部の地方都市の該当するNGOへのインタビュー調査を試みた。その結果判明した実態は、それぞれのNGOが支援する範囲は各NGOが定めており、支援に恵まれた地域と恵まれない地域の落差が存在することであった。MJ村はその意味では恵まれない地域であり、包括的な地域振興をおこなうNGOの空白地帯であった。

③「自治」の作法

そこで次に、比較的早い時期からNGOが活動していた地方都市B市に注目し、その土地におけるアソシエーション活動やNGO活動の現状を把握しつつ、周辺村落とのアソシエーションの連携状況について考察することを試みた。

B市に拠点をおく村落も支援対象の NGO は複数あるが、実際のところは、支援を得ることに慣れたNGO化した小都市のアソシエーションが支援を受けることが多い。草の根的なNGO では支援先の村落を NGO がみずから探すが、支援を受けることを想定していない村落アソシエーションも多い。逆にB市周辺にも村落の若者によるアソシエーションは存在するが、うまく支援をうけることができていない。両者の接触の場は非常にかぎられているのである。

地方都市の内部だけをみれば、各種のアソシエーション、NGO が地域社会の各所で活動しており、EU型の市民による自治はある程度機能しているようにみえる。そのような「自治」の作法は体制転換以降人々が身に付けたものであり、アソシエーションの協働による公共圏が成立していると言えるだろう。しかしながら、村落におけるそれは、村落のモラルに依拠した共同性のなかに埋没している。その芽が伸びないのはなぜか。村落のアソシエーションとは都市と村落の境界をつなぐパイプは個人の資質に依拠していることに加え、ボランタリーなアソシエーションであること自体が内在的な理由となっている。さまざまなアソシエーションやNGOによって公共性が担保される都市空間のなかでは、ひとつのアソシエーションの支援の幅が狭いことは問題とされない。意欲ある若者は、村落の子どもやシングルマザーほど支援対象として注目されない。村落を支援するNGOもまた資金を得るために、社会的により緊急度の高い問題に注目する。

一方で、村落のアソシエーションはコミュニティ全体を担うことを期待される。本来ボランタリー出会ってよいはずのアソシエーションの活動目的は、アソシエーションへの周囲の期待のずれによって揺れ動かかざるをえないことも見過ごせない。その意味で、ローカルな自治のありかたはいまだ強固なのか、今後も検討が必要である。

(3)本研究成果の位置づけ

本研究の重要なキーワードである「自治」という言葉は、文化人類学に一見なじみにくい概念のように見えるが、このようなアソシエーションの関与に焦点を絞ったミクロレベルの「自治」は、異なる思想を持つ人々の合意形成の過程そのものであり、現地における公共性を考察する補助線となるものである。ここにおいて、顔のみえる関係のなかの村落のアソシエーションと一見スマートではあるが、浮き沈みの激しい都市のアソシエーション（＝NGO）を二項対立的に分析するのではなく、そこにある「自治」に関する価値観の違いについて考察を進めることに、本研究は当該分野における意義を持つ。

(4)今後の展望

（2）の最後でも述べたように、活発なアソシエーション活動を行う地方都市の周辺の村落がどのように連携を行っているかは今後さらなる調査が必要である。また、EUが前提とする市民による自治はコミュニティを支え得るものなのか、理論的な検討も必要である。

５．主な発表論文等（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 神原ゆうこ 2013「(報告総括)『現地のモラリティ』を可視化する試み」『九州人類学会報』40:1-12.
https://sites.google.com/site/kyujinken/Home

② 神原ゆうこ 2012 「(書評) スロヴァキアの地で時代の転換を生きた人々の生活を

描く（サムコ・ターレ著／木村英明訳『墓地の書』松籟社）」『図書新聞』第 3083 号、p.6、図書新聞社。

③ 神原ゆうこ 2012「研究紹介：スロヴァキア地域社会におけるヴォランタリー・アソシエーションの活動」／Yuko Kambara-Yamane, Správa o výskumnom projekte japonskej kultúrnejsntropologičky: občianske združenia a mimovládne organizácie pôsobiace v miestnych spoolčenstvách na Slovensku. *Societas Et Res Publica* 1(4):247-251. （日本語／スロヴァキア語の二言語表記）
http://serp.fsv.ucm.sk/en/

④ Yuko KAMBARA 2012 (Book Review) KILIÁNOVÁ, Gabriela, Eva KOWALSKÁ and Eva KREKOVIČOVÁ (eds.). My a tí druhí: v modernej spoločnosti Konštrukcie a trasformacie kolektívnych idetít (Us and the Others in Modern Society: Constructions and Transformations of Collective Identities), Bratislava: Veda, 2009, 722 pp. *Japanese Slavic and East European Studies* 32 :177-180.

⑤ 神原ゆうこ 2011 「スロヴァキアの民族舞踊と子どもたち」『こども環境学研究』7(3):74-75.

〔学会発表〕（計 7 件）

① Yuko KAMBARA - YAMANE 2013.3.14 The Imagination of Civil Society : Citizen’s participation in the Slovak western borderland village. 132th Gellnerovsky Seminar, Prague/Czech (Organized by Masaryk Czech Sociological Association and Czech Association for Social Anthropology).

② Yuko KAMBARA - YAMANE 2012.11.15 ‘Democracy’ in the Legacy of Socialism: Post-socialist transition in the rural Slovak borderlands. 111th Annual Meeting of American Anthropological Association, San Francisco /USA.

③ 神原ゆうこ 2012.10.27「モラルの境界線：共同性のための『善意』とイデオロギーの間を考える」第 11 回九州人類学研究会オータムセミナー、セッション A「コミュニティのなかの関係性とモラル・規範・イデオロギー」（於・スコーレ若宮）

④ 神原ゆうこ 2012.7.28 「東欧革命の周縁から『市民社会』を考える：体制転換後のスロヴァキア村落アソシエーションをさまよう理念」平成 24 年度九州人類学研究会シンポジウム（於・熊本大学）

⑤ 神原ゆうこ 2012.6.24「地域社会のなかにおける公共性を問うことの人類学的可能性：スロヴァキア村落における地域振興の試みを事例として」日本文化人類学会第 46 回研究大会（於・広島大学）

⑥ 神原ゆうこ 2011.6.25「日常のなかの『デモクラシー』へ：スロヴァキア村落部における『革命』の経験とその後」ソ連東欧史研究会（於・西南学院大学）

⑦ 神原ゆうこ 2011.6.11「ローカルなコミュニティにおける『革命』の記憶と忘却：ポスト社会主義期スロヴァキアにおける村落の『民主主義』を手がかりとして」日本文化人類学会第 45 回研究大会（於・法政大学）

６．研究組織

(1)研究代表者
神原　ゆうこ（Yuko Kambara）
北九州市立大学・基盤教育センター・講師
研究者番号：50611068

(2)研究分担者　なし

(3)連携研究者　なし